

## 「近未来の課題解決を目指した実証的社会科学研究推進事業」中間評価結果表

研究領域	研究領域2 生活の豊かさを生む新しい雇用システムの設計
研究課題名	ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和：キャリア形成と家庭・地域・社会活動が可能な働き方の設計
責任機関	お茶の水女子大学
研究代表者	永瀬 伸子

## 評価結果

- A . 現行のまま推進すればよい  
 A- . 研究計画の一部見直し等努力の余地がある  
 B . 研究計画の大幅な見直し等一層の努力が必要である  
 C . 研究費の減額又は研究の終了が適当である

## 評価にあたっての意見

本研究の分析の視点（子どものウェルビーイングや家庭からの分析など）はユニークで、研究の方法も量的分析、質的分析の両者を駆使するなど、手堅い実証研究が行われている点は評価できる。

しかしながら、分析の核である子どものウェルビーイングに関して言及がなされておらず、当初の研究計画にある視点を生かした研究とすることが期待される。そのためには、残りの研究期間を考慮すると、調査研究の内容や方法を精査し、当初の研究計画に即したものに限定することが望ましい。また、政策提言として検討されている内容は、既に政策として取り組まれているものが多くあるように見受けられるため、子どものウェルビーイングなど、本研究の特徴を生かした新しい政策提案に注力することが期待される。さらに、より実効性のある政策提言とするためには、人事制度など制度の視点だけでなく、職場での運用や中小企業の視点も必要になると思われる。

なお、国費が投入されていることを踏まえて、適切なコスト管理を実施して、調査研究を効率的に行っていただきたい。